

平成 22 年 5 月 24 日現在

研究種目：基盤研究（c）

研究期間：1997～2010

課題番号：19592462

研究課題名（和文） 看護技術の修得レベルを適切に評価する取り組み

研究課題名（英文） A study of appropriate evaluation regarding students' nursing skills acquisition

研究代表者

青山美智代 (AOYAMA MICHIO)

研究者番号：80264828

研究代表者の専門分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学 基礎看護学

キーワード：看護学教育 看護技術 修得度評価 確信度

1. 研究計画の概要

本研究は、看護技術の修得を適切に評価法として、修得状況の自己評価の適切さを加味する新しい評価方法の意義の検討を目的としている。自己評価の適切さを評価する方法として、医学教育の認知領域における評価法として試みられている、森田らの確信度を加味した客観試験（CWT）を応用した方法を用い、学生の看護技術の課題に関する知識と技能に対する自己評価の適切さを評価する。

分析方法として、CWTの結果と課題実施時の行動計画内容・正答率・結果のフィードバックに対する受験者の反応との分析を計画している。さらに、評価を2度繰り返かえし、結果の推移を分析することにより、自己評価の適切さを併用した新しい看護技術の評価法の妥当性を検討する。

(1) データ収集に関する環境整備

看護技術の実施場面の収録方法に関して、三脚によるカメラの設置から、天井にカメラを固定し、遠隔操作による操作を可能にする。

(2) データの入力・分析・表示方法の改良

（有限会社プランニングラボラトリーとの随意契約による開発）

CWTによる看護技術の評価は、知識の全設問に対する解答と技能の全てのチェック項目に関する評価、それらの全設問と全項目に対する学生の確信度をデータとするため、データの入力とセットにかかる時間の短縮を図る。また、結果の表示はこれまで、ひとつの座標に知識と技能の得点と確信度の代表値（CWT-Point）を点で表示していた。フィードバック効果の促進を目的として、看護師のイラストの大きさや方向で表示する。

(3) 自己学習環境の整備

知識の学習は、パソコンを活用して自己学習できるシステムを整備する。技能の学習は、学生が自由に実習室で録画機器が使用できるような環境を整える。

(4) CWTによる評価結果の分析

確信度と自己学習時間や評価時の行動計画の内容やフィードバックに対する反応との関連を分析する。また、評価を2度実施し、確信度の推移を分析する。

2. 研究の進捗状況

(1) データ収集に関する環境整備

技能の録画機器を天井に固定することにより、学生への心理的圧迫感や評価時の動線

の交差が緩和された。また研究計画(3)として、学生も使用できることを周知した。

(2) データ入力方法の改良

データの入力・セットまでの時間の短縮と、結果のイラスト表示ができるよう改良した。

(4) CWTによる評価結果の分析

看護技術の修得度評価のあと結果のフィードバックを行い、4ヵ月後に同じ看護技術の評価を実施し、確信度の推移を分析した。1回目の評価におけるCWT-Pointと自己学習の関連は、技能との有意な関連があったことから、技術の自己学習は、確信の高い適切な技能の修得に役立つと考えられた。しかし、CWT-Pointの程度別にみると、技能のCWT-PointのMediumグループ(過小評価傾向のあると考えられるグループ)は、自己学習の有無による差が見られず、自己学習によって確信を高めることが難しいと推察された。

2度の結果の全体的な推移について、知識と技能のCWT-Pointは、Lowグループ(過大評価傾向のあると考えられるグループ)とMediumグループで増加が見られ、Highグループ(適切な評価をしていると考えられるグループ)は低下した。さらに、3グループ間での比較の結果、2度の評価ともLowグループは他のグループに比べて低く、Highグループは高く、MediumグループはLowグループとHighグループの間に位置づいた。また、CWT-Pointグループ内での2度の評価のCWT-Pointの変化を比較すると、Mediumグループは他のグループに比べて増加していた。このことから、CWTによる評価や1回目の結果のフィードバックは、CWT-Pointによって与える影響が異なると推察された。

今後、1回目のCWT-Pointの評価結果と学生が作成した行動計画の記述内容やフィードバックに対する学生の反応との関連

を分析することにより、CWTによる看護技術評価が学生に与える影響について検討することが可能であると考えられた。

3. 現在までの達成度

知識の自己学習環境として、学内LANを用いた整備が進んでおらず、③と評価している。

4. 今後の研究の推進方策

知識の自己学習環境の整備は、本学のeラーニングのシステムの整備の遅れもあり、本研究期間では困難であると判断している。進捗状況で述べた今後の検討課題を遂行し、自己評価の適切さを併用した看護技術の修得レベルの評価法の妥当性の検討に関する研究を進める。

5. 代表的な研究成果

[雑誌論文] (計0件)

[学会発表] (計3件)

1. 青山美智代, 三毛美恵子, 林有学, 須藤聖子: 看護技術の修得に向けた確信度評定による自己学習の分析, 日本看護科学学会学術集会, 2007, 東京.

2. 青山美智代, 三毛美恵子, 須藤聖子, 林有学, 森田孝夫: 確信度を加味した看護技術評価-認知領域と精神運動領域の推移からみた特徴-, 日本医学教育学会学術集会, 2007, 奈良.

3. 青山美智代, 石川雄一, 田村由美, 森田孝夫, 三毛美恵子, 須藤聖子, 大山未美, 藤田比左子: A study of students' confidence regarding their knowledge and psychomotor skills on fundamental nursing skills using Confidence-Weighted Testing (CWT), The 1st International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, 2009, Kobe Japan.

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)